

令和7年度 一般選抜（後期）

小 論 文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始の合図があった後、最初に問題用紙と解答用紙の確認を行ってください。**問題用紙は A4 版片面 1 枚（表紙は除く）で、解答用紙は A3 版片面 1 枚**です。枚数の不足、重複のないことを確認してください。
また、印刷が不鮮明な場合は、手を挙げて試験監督員に知らせてください。
3. 受験番号の記入漏れ又は誤記があった場合は失格になります。
4. 解答は、解答用紙に、**横書き**で記入してください。
5. 下書きは、別紙の下書き用紙を使用してください。
6. 数字 2 文字以上を続けて記入する場合は、次のように記入してください。

例① 2 0 2 4 年

→

2 0	2 4	年
-----	-----	---

例② 9 9 . 9 %

→

9 9	. 9	%
-----	-----	---

7. 濁音（が、ぎ、ぐ・・・）、半濁音（ぱ、ぴ、ぷ・・・）は 1 文字として記入してください。
8. 体調不良やトイレに行きたい場合などは、黙って、手を上げてください。
それ以外の途中退室は認めません。
9. 試験監督員の試験終了の合図と同時に解答するのをやめて、着席したまま試験監督員の指示を待ってください。
10. 解答用紙は、未記入のものも含めすべて回収します。なお、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰って構いません。

令和7年度 一般選抜（後期）小論文試験問題

【問】

筆者の考える「間柄の世界」について説明し、多職種連携における「間柄の世界」の必要性について、あなたの考えを800字以内で論じなさい。

【課題文】

ネット上で他人を叩く言動が目立つが、どうも他人に対する寛容さを持ち合わせない人が増えているように思われる。何かにつけて自分の視点を絶対化し、自分と違う考え方や行動パターンを取る人に対して、

「あり得ない！」

「許せない！」

と糾弾する。

でも、そのように正義感を振りかざして他人を糾弾する人の言動を見ていると、あまりに一方的で、相手の視点に対する想像力が乏しすぎると思わざるを得ない。自分の視点到凝り固まっており、自分と違う視点もあるということがわからないのだろう。

自分の視点を絶対化せず、相手の視点に想像力を働かせることができれば、それなりの事情があつてのことと理解することができ、一方的に糾弾するようなことにはならないだろうが、どうも他者の視点を想像する力が衰えてきているようだ。

だが本来、私たち日本人は共感能力が高く、他者の視点に対して想像力を働かせるのが得意だったはずである。欧米かぶれの論者により、しばしば個として自立していないと批判される私たち日本人の自己は、他者から切り離されている欧米人の自己と異なり、他者と密接につながっている。

私たち日本人は、関係性としての自己を生きているのであって、欧米人のように個としての自己を生きているのではない。「個」の世界を生きているのではなく、「間柄」の世界を生きているのである。だからこそ、他者の視点を想像するのも容易なのだ。

「I」が「you」に対して独立的に、つまり一方的に自分を出すというのが、「個」の世界のあり方の基本と言える。自分の思うことを伝える際に、とりあえず相手は関係ない。ただこちらが言いたいことを言う。

それに対して、「間柄」の世界を生きる私たち日本人は、双方向の視点をもつ。「個」の世界を生きるなら、ただ自分の思うところを自己主張していればよい。だが、「間柄」の世界を生きるとなると、そう単純にはいかない。相手のことを意識し、相手との関係にふさわしいように、相手を傷つけないように、気まずいことにならないように、相手が不満に思うようなことにならないように、相手の期待を裏切らないように、などと相手に配慮しつつ、自分の思うところを伝えることになる。

私、僕、オレなどの自称詞さえも相手との関係性によってごく自然に使い分けているように、持ち前の共感能力を発揮して、相手が何を思っているか、相手が何を望んでいるかなど相手の立場や気持ちに配慮しながら、双方が心地よさを失わないようにものの言い方を調整する。

こうしてみると、はっきりと自己主張できないのは、べつに情けないことではなく、相手の気持ちや考えていることがわかるし、相手の立場がわかるから、一方的にこっちの言い分を押しつけるようなことがしにくいからなのだ。

【出典】

榎本博明. 思考停止という病理 ^{やまい} もはや「お任せ」の姿勢は通用しない. 平凡社新書. 2023. P.148-150